

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子青戸中央保育園
施設所在地	葛飾区青戸4-24-20
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の不思議

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

昨年度から室内にある太鼓に興味を示し、叩いて音を鳴らすだけでなく、音で返事をしたり(強弱をつけて気持ちを表現する等)、音で単語を表したりする姿が見られた。また音に合わせてリズムをとる姿も見られるようになったため、音の探求を深めたいと考えたため

2. 活動スケジュール

<p>①グループ作り：3，4歳の異年齢で学びあいが発生するよう、3，4歳5～6人でグループを作成した。グループの名前を子どもたち自身で決めてもらい、グループに愛着がもてるようにした。</p> <p>②音のイメージづくり：保育士が子どもたちに音のイメージを問ひかけ。「色は？形は？」など問ひかけ。子どもたちにイメージを持ってもらうことで音へのイメージを膨らませることができた。</p> <p>6月初旬：音とは何か、色、大きさ、形、匂いなどを問ひかけ、イメージを共有。3，4歳児混合のグループを作りイメージしたものを発表した後絵を描いた。</p> <p>③戸外探検：6月中旬：園外に音を探しに出掛ける。各自自由に散策し探す。(公園内で自然に聞こえてくる音、風、鳥、草などの音、足音、サイレン)に気が付く。</p> <p>④園や家の中での音探し： 6月下旬：園内や家の中の音を探す。(着替えの時にお腹を叩くと場所によって異なる音が出る。聴診器で自分のお腹の音を聞く。給食室の食材を切る音。友だちの笑い声や話し声。)このような中、足音が鳴るようにステップを踏むとダンスのようになることを発見する。</p> <p>⑤リトミック：保育士がリトミックを行う(1～2週間に1回) 7月中旬：リトミック実施。ピアノの音に合わせて動いたりピアノの音の高低のイメージの違いに気が付く。 7月下旬：リトミック実施。保育者の楽器の音に合わせて自由に動く。 8月上旬：楽器の名前を知り、音の違いに気が付く。8/15楽器注文。楽器を使って自己紹介を行ったり、ボール遊び等のゲームをする。</p> <p>⑥演奏会でプロの音を聴く、楽器に興味をもつ 8月下旬：楽器を使ってリズムをとる。楽器に合わせて歌う。9/2と12/23鈴木楽器による演奏会を開催。プロの演奏を聴き、音への興味を膨らませた</p> <p>⑦楽器コーナーを作る： 9月下旬：楽器コーナーを作り自由に楽器作りをする。10月中旬：楽器作り。</p> <p>⑧発表会：12/20発表会で3，4歳の合同クラスで打楽器、トーンチャイムで演奏「こぎつね」「ジングルベル」をみんなで発表。</p>
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<p>環境設定：見つけた音を記録できるよう、模造紙を貼って書き込めるようにした。自由に楽器を使えるようコーナーを設置。リトミック活動時は広い部屋を使い体を動かすための十分なスペースを確保。CDデッキにリトミック用のCDを入れておき自由に身体を動かせるようにした。準備物：模造紙、クレヨン、マジック、色鉛筆、画用紙、折り紙、聴診器、マイク、フルーツ缶、紙皿、牛乳パック、すず、CDデッキ、プロジェクター、リボンテープ、工作用紙、打楽器、キーボード、ミルク缶、コーヒー缶</p>

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①グループ作り：3，4歳を混ぜてグループを作る。グループによって偏りが出ないように編成。
- ②音のイメージづくり：音のイメージを膨らませる。発言し合い、絵で残す。子どもたちが答えやすいよう「どんなかたち?」「どんないろ?」などと質問。
- ③戸外探検：園外で音を探し、帰園後発表。（風、空、人の声、動物の泣き声）
- ④園や家での音探し：園内で音を探し発表。（調理室、電子レンジ、机、聴診器で聞き取れる音）
- ⑤リトミック：園内で保育士が子どもたちにリトミックを行う（音の高低に気付け違いを体で表現）。楽器の名前を知ったり、種類によって音が違う事を発見し、好きな楽器を楽しむ。また、ゲームやリトミックで楽器に親しむ。楽器コーナーを設置。

- ⑥演奏会でプロの音を聴く、楽器に興味をもつ
8月下旬：楽器を使ってリズムをとる。楽器に合わせて歌う。
9/2,12/23鈴木楽器による演奏会を開催。プロの演奏を聴き、音への興味を膨らませた。

- ⑦楽器コーナーを作る：購入した楽器で音あそびを楽しんだり、自分たちで音の出る楽器を自作したりと子どもたちの興味を広げる活動や環境を整備。

- ⑧発表会：12/20発表会で3，4歳の合同クラスで打楽器、トーンチャイムで演奏「こぎつね」「ジングルベル」をみんなで発表。購入した楽器だけでなく、自分たちで制作した楽器なども演奏に活用した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

昨年度より担任が持っていた太鼓を使ってリズム遊びをしていた事がきっかけでカスタネットやタンバリンなどの打楽器に興味を示す姿が見られた。そのような中で園での活動中、生活の中や遊びの中から音を見つけたり、身体の一部を叩いて音を出したり物によって異なる音が出る事を見つけ知らせたり、家庭で見つけた音を保育者に伝える姿が見られるようになった。

引っ込み思案の子どもが音を通じた活動で自信をもつようになった。

日常の中で音に触れる遊びをすることで子どもたちの感性や情緒などの成長につながる様子がみられた。

一人の児が音に合わせて足踏みをしたことからリトミックを行うと自由に身体を動かしたり、動きを覚え「この音がしたらこんなふうに動くよ、この音がしたらもともどるよ」と子どもたち同士教え合っていた。また、何度もピアノの音を聞くうちに高い音は明るい、低い音は暗いなど自分で分かりやすく理解する様子が見られた。講師による楽器演奏をきっかけに楽器によってさまざまな音がある事、色々な楽器の音が混ざると素敵な音になる事などに気が付き、発表会での3，4歳合同合奏の案が出た。さらに自分達で楽器を作りたいという児が多く、ミルクの空き缶で太鼓を作った。今後もさらに増やしていく予定。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

○子どもたちが自主的に音を見つけたり知らなかった楽器の名前を覚えたりと意欲的な姿が見られた。
○活動と活動の間をあけなかった事で前回のリトミックの内容を覚えていて、自分達で身体を動かし楽しむ姿があった。
○3, 4歳合同で行ったため互いに助け合う姿が見られた。グループごとに話し合い意見を出す場面では譲り合ったり、助言するなど協力する姿があった。
○ドキュメンテーションを頻繁に更新したため親子で見ながら会話をする様子が見られた。また、保護者からすくわくに関しての質問をうけるなど、保護者の興味関心も得ることができた。
○外部講師による打楽器の演奏を聴いてからは、子どもたちの音や楽器に対する関心がより深まり、保育室に手作り楽器を設置したり子ども達自身が楽器を作るきっかけになった。
○今後もいつでも好きな楽器に触れられる環境を継続し、探究することにより楽しみが広がる経験を増やしていきたい。